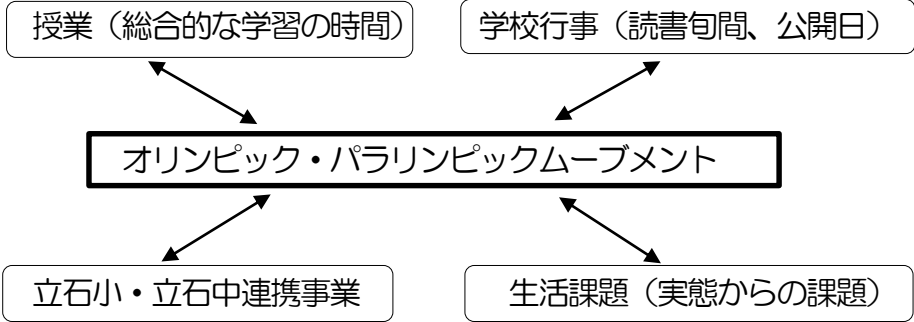


平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 福岡県 】

1 実践テーマ	【 I 、 III 】
2 実施対象者	小郡市立立石中学校 生徒 102名 同 教職員 17名 同じく 保護者 （参加 32名） 小郡市立立石小学校 5, 6年生 児童 57名 小郡市社会福祉協議会 4名、立石中校区住民等へ呼びかけ
3 展開の形式	(1) 学校における活動 
4 目標 (ねらい)	1 オリンピズムの教育的価値観や、パラリンピック種目に対する知識を深め、特に他者への尊厳の視点で、実際にパラリンピアンと交流をすることにより、オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。 2 障がいに対する見識や理解を深め、障がいと向き合いながら活動をしている選手との交流をとおして、心や環境でのバリアフリーをすすめるとともに、インクルーシブな社会の構築のための一員としての自覚と実践力を高める。
5 取組内容	取組1 車いすテニスプレーヤー 川野 将太さん …小郡市教育委員会、小郡市社会福祉協議会、そして、 本校の学校行事と連携した取組… 期日 12月2日（土） 題「挑戦」 ～ たくさんの支えの中で ～ シーズアスリート所属・車いすテニスプレーヤー・川野将太氏を招へいし、全校生徒、保護者や地域関係各位の参加により、講演会と、実技披露をしていただいた。以下の行事等との連携により、各方面からの参加を得ることができた。

…連携した行事…

- 校内読書旬間 11/27～12/8
共通読本「15歳 拓の旅立ち」(NHKスペシャル子ども・輝けいのちより)
- 小郡市統一学校公開日
小郡市教育委員会が、12月2日(土)午前中を、保護者や地域の方々に、学校(授業や行事等)を自由に参観・参加していただけるよう設定した日
- 小郡市立三国中学校、高野頌吾さん(2年生・車いすテニスプレーヤー)も招へいして実技披露をしていただいた。
- 本校、人権問題学習の取組の一環として
本校の人権学習の年間指導計画に基づく取組の一環として位置づけた。

※講演会と実技披露のようす

写真(上左)…講演中の川野さん、(上右)…お話を聴く生徒・参加者
(下左)…実技披露をする川野さん(手前)と高野さん(奥)
(下右)…生徒会・文化図書委員長によるお礼の言葉



取組2 ゴールボールプレーヤー 小宮 正江さん

…総合的な学習の時間(福祉に関する内容)、小中連携の取組…

期日 12月20日(水)

題「ゴールボール実技講習会」

本校1年生(36名)と、隣接する立石小学校5、6年生の児童(57名)を対象にして、シーズアスリート・ゴールボールプレーヤー・小宮正江氏を招へいし、ゴールボールの実技講習会を開催した。小宮氏の講話とゴールボールの紹介、そして実技講習会(ゴールボールのゲーム)を行った。

- 視覚障がいでの生活について…現在の生活の様子や配慮が必要なことなど
- パラリンピック種目ゴールボールとの出会いとロンドンパラリンピックでの様子(メダルの披露も含め)
- 視覚障がいに対する配慮すべきこと等についてのお話のあと、ゴールボールを体験した。

※実技体験のようす

写真（上左）…講演中の小宮さん、（上右）…立石小の児童
 （下左）…実技講習会、アイシェードを装着し、「ボールはどこ?」「ラインは?」「アッここにあった」と探しながらゲームに挑戦する中学生
 （下右）…コーンとバーとネットで、仮設ゴール完成



6 主な成果

本事業の成果を、次の4点に分け、児童生徒の感想や意見文をもとに報告。
 （下線は筆者）

- 1 生徒の、障がいに対する意識の変容
 実際に間近に接することによる意識の変化がみられる

感想

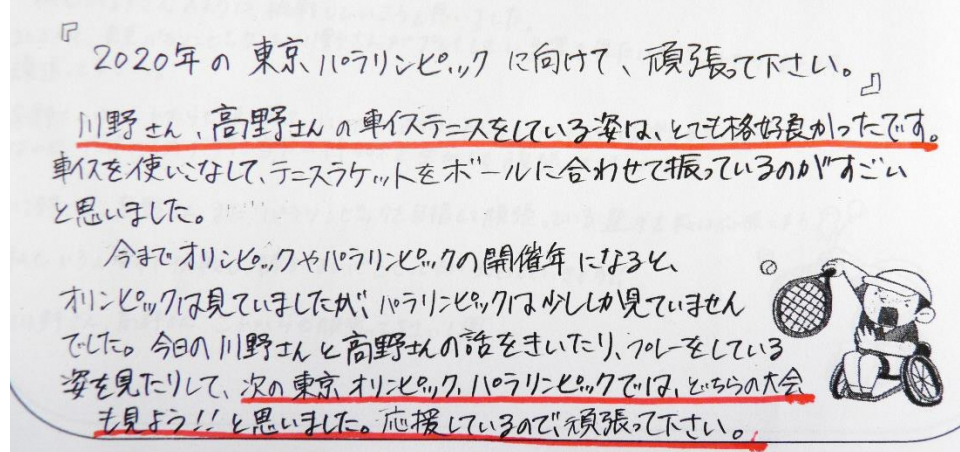
私は、今日の話を聞いて、小宮さんは、「言葉」を大切にしていることが分かりました。ふつうにつかう言葉には、ちゃんと意味がこもっていることも分かりました。これからは、体の不自由な人には、どんどん声をかけようと思いました。人のことを思って行動することを心がけたいです。

私は、今日のお話しを聞いて、胸が下がるかなくても、今を前向きに挑戦しなから生きている川野さんはとてもすごいなと思いました。川野さんの講演を聞いて、私は障がいを持っている人をかわいそうと思う事は障がい者にとって、とてもつらい考えたことと知りました。

・小宮さんの、「私は目がほとんど見えません。だから…こういうところに気を付けて生活しています。」というお話や、川野さんの車いすテニスに出会うまでの体験から、「失ったものを数えるな。今あるものを最大限に活用しろ。」ということを実践している事のすごさ、傍観者的な立場から、主体的にかかわりを持ちたいという意識の変化がみられる。

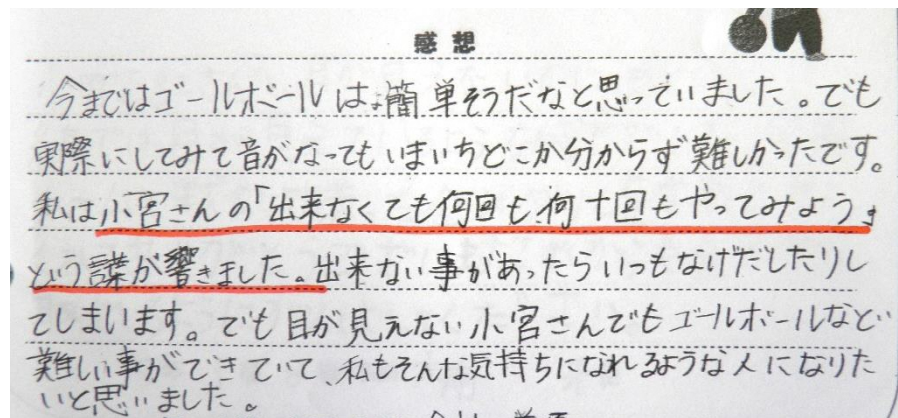
2 生徒の関心・意欲・態度

オリンピックはもとより、パラリンピック種目や、パラリンピック競技大会そのものへの興味や、高野さんの参加…身近な選手の存在



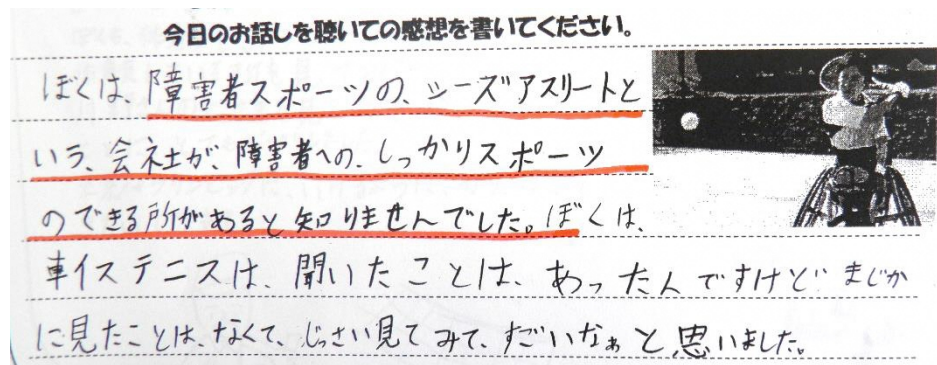
・パラリンピック種目を実際に観戦（体験）して、競技や大会そのものに対する興味・関心が高まった。また、身近な中学生が、大会をめざして頑張っている姿からも、多くの共感が得られた。

3 自分自身を振り返る機会



・障がいとの関わりや、パラリンピック種目の体験の中で、障がいを乗り越えて前向きに生きようとする講師の姿から、自分自身の姿勢や生き方・考え方を振り返る機会ができた。

4 「シーズアスリート」等、応援団体（企業）の存在 新たな知識



・今回、特に講師を派遣していただいた、シーズアスリートという会社の存在を知るとともに、選手に対してどのような支援ができるかを合わせて考える機会となった。

<p>7 実践において 工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>取組1</p> <p>① テニスコートの設営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校にはテニス部がないため、バレーボールコートとバレーボールネットを活用し、仮設室内テニスコートを作った。川野氏は、室内用のボールと生徒が使用できる競技用車いすを準備されており、実際にラリーの相手をするにより、より競技の楽しさや難しさを理解できた。 <p>② 行事との連携… 読書（著書等の検索）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の読書旬間の行事と重ねて、全校読書の作品やジャンルをまとめ、本講演会を読書講演会と兼ね、司会などの運営を、生徒会・文化図書委員会が中心となりすすめた。 <p>③ 中学生車いすテニスプレーヤーも招へい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接校区の三国中学校2年生の、高野頌吾さんを同講演会に招へいし、ラリーや練習を披露していただいた。このことにより、パラリンピック種目や選手の存在が、大変身近なものになった。 <p>取組2</p> <p>① ゴールボールコートの設営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーコーンとプラスチックバー、ネットを使い、ゴールボールのゴールにより近いゴールができた。 <p>② 小学校との連携… 出前授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する立石小学校（1小1中）の5、6年生からの参加の希望があり、事前に小学校に「出前授業」としてゴールボールを含めた連携授業ができた。 ・コートづくり等の準備や後片付けの段階で、体育館で活動している部活動の部員の協力体制ができた。
<p>8 主な課題等</p>	<p>① 事前準備における物品等の準備（購入等も含めて）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備物（ボールやネットなど）の具体的な中身が、講師との打ち合わせの中でわかり、物品等の購入の手続きがギリギリになった。→手続きの簡素化や、物品購入等での規制の緩和が望まれる。 <p>② 道徳、総合的な学習の時間等のカリキュラムの調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度の4月に本事業の実施が決まり、5月に詳細の説明会に参加し、具体的な内容等の確認ができたことから、その後、道徳と1年生総合的な学習の時間の年間指導計画の一部変更（順序の入れ替え、実施時期の変更等）を行った。→実施の決定を前年度に行う。 <p>③ 障がいに対する正しい知識や、今後のインクルーシブな社会構築への段階的・スパイラル的指導の継続</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業では、特にパラリンピックへの関心の喚起と、障がいに対する正しい理解・障がいへの偏見をなくすことをねらいのひとつとした。本事業を単独の行事とせず、様々な形で、継続して取組んでいくことにより、本事業の目的がより深く達成されるのではないかと考える。

<p>9 来年度以降 の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 本事業は、児童・生徒にとって大変意義深い内容であるので、何らかの形で継続的な実践を行いたいと考えている。 <ol style="list-style-type: none"> ① 第1学年 総合的な学習の時間・福祉に関する学習 <ul style="list-style-type: none"> G, T等を招へいした授業を行い、障がいに対する正しい理解と、積極的な対応の姿勢、そしてバリアフリー等の視点からのインクルーシブな社会の構築への基盤を築く … 小郡市社会福祉協議会と連携した取組 ② 立石小学校と連携した取組 <ul style="list-style-type: none"> 合同研修会や授業交流会の中で、障がいに対する取組も合わせて討議し、小中での連続した取組ができるようにする ③ 講演会等の企画 <ul style="list-style-type: none"> 様々な講演会の企画の段階で、同課題（障がいに対する理解、パラリンピック等）での講師・講演等の依頼をする (例) PTA主催講演会（研修会） 地域のまちづくり講演会 読書旬間講演会 などでの継続した取組を依頼していく。 ④ 本校の教育課程の中での取組 <ul style="list-style-type: none"> • 道徳の授業の中での題材を工夫し、障がいやパラリンピック大会等との関わりを継続していく • 特別活動の中で、川野さんや小宮さんを含めた選手の活動を応援できる取組を考え、積極的な応援の姿勢をつくる
--------------------------	---